

# ☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

## 2018年度 日本臨床歯科医学会東京支部 第1回例会のご案内

新緑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る6月3日(日)に開催されます2018年度 東京SJCD第1回例会についてご案内申し上げます。

今回はインサーストレージングとして、東京SJCD最高顧問の山崎長郎先生にご登壇いただけることになりました。マテリアルの革新を背景とした修復治療の進歩とその到達点、また複雑な修復治療を成功に導くための臨床的ガイドラインについてあらゆる角度から解説していただく予定です。

また、会員のケースプレゼンテーションにおいては、診査・診断に基づく包括的な治療を実践されている3名の先生方をお願いしております。

今回は、大変充実した内容となっており、満足度の高い例会になると予想しております。例会後には毎年大好評の懇親会も用意しておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいようお願い申し上げます。

日 時	2018年6月3日(日) 受付開始 9:30 / 開演 10:00~17:00
会 場	都市センターホテル/コスモスホール 3F
懇親会会場	17:30~ / 都市センターホテル オリオン 5F
所在地	〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 TEL 03(3265)8211

### -教育講演-

「修復治療の新たな展開」 原宿デンタルオフィス 山崎長郎先生

### -一般講演-

「 Full Mouth Rehabilitation of a Patient with Bite Collapse  
in the Molar Area Using Dental Implant Prosthetics 」  
さいとうデンタルクリニック 斎藤隆輔先生

「 Full mouth reconstruction of a patient with complicated problems 」  
柏木歯科 柏木 了先生

「上顎側切歯の先天性欠如・ガミースマイルを伴うオープンバイト症例」  
医療法人社団Teeth Alignment  
AQUA日本橋DENTAL CLINIC 綿引淳一先生

-教育講演-

『修復治療の新たな展開』

山崎長郎(原宿デンタルオフィス)

■略歴

1970年 東京歯科大学卒業

1986年 原宿デンタルオフィス開院

■所属団体

日本臨床歯科医学会 理事長、iACD 日本支部会長、日本歯科審美学会、日本補綴歯科学会、  
日本デジタル歯科学会

■抄録

現代の歯科修復治療には、マテリアルの革新・開発により大きな変化がもたらされている。しかも、その発展と進歩の速度は、私達の予想を遙かに超えるものとなっている。一方、患者サイドにおいても、様々な媒体・分野から情報・知識を得て、従来の修復治療より更に一歩進んだ審美性を望む声が高まりつつある。我々歯科医は、これからの変化しつつある状況を確実に把握し、新しい世紀の新たな審美修復治療の形を確立していかなければ、この21世紀に取り残される事になるであろう。歯科修復治療のステップアップを目指す先生方の為、最新の審美修復治療の手法と背景が、過去の修復治療からどのように変化してきたか、それに付随する治療計画の変更はあるのか、また、使用するマテリアルの正しい選択法・CAD/CAM の使用法などを中心に、あらゆる角度から新世紀にふさわしい修復治療を解説しようと思う。

-一般講演-

『Full Mouth Rehabilitation of a Patient with Bite Collapse in the Molar Area Using Dental Implant Prosthetics』

斎藤隆輔(さいとうデンタルクリニック)

■略歴

2005年 日本歯科大学卒業

2006年 夏堀デンタルクリニック勤務

2011年 あいば歯科勤務

2013年 さいとうデンタルクリニック開業

■所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部、一水会、日本顎咬合学会

■抄録

Posterior bite collapse. 臼歯部欠損によりパーティカルストップを喪失すると、咬合高径の低下やフレアーアウトすれ違い咬合等、咬合崩壊を引き起こす原因となる。今回提示する症例は、55歳女性。上顎前歯部補綴物脱離を主訴に来院。下顎臼歯欠損、補綴物脱離によりパーティカルストップが欠如していた。残存歯には不適合補綴物、マージンに二次う蝕が多く見られ咬合再構成が必要であると診断した。咬合の安定を得るには、適切な下顎位(垂直咬合高径・水平的な位置・中心位)・アンテリアガイダンスの確立・パーティカルストップの確立・顎関節・神経・筋機構に調和した円滑な下顎運動などが挙げられるが、本症例においてはパーティカルストップの確立に対しインプラントを用いた。SJCDで学んだ顔貌から問題点を捉えトリートメントフローチャートに沿って治療を行なった症例をご報告させていただきます。

## 『Full mouth reconstruction of a patient with complicated problems』

柏木 了(柏木歯科)

### ■略歴

2002年 岩手医科大学歯学部卒業  
2002年 秋田大学医学部歯科口腔外科入局  
2007年 タケダ歯科クリニック勤務  
2010年 柏木歯科開業

### ■所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部、一水会、日本口腔インプラント学会、日本臨床歯周病学会

### ■抄録

複雑な修復治療に取り組むにあたり必須となるのは、全顎的な診査・診断と的確な治療計画のもと、最終的な治療ゴールを目指す「シーケンシャルトリートメント」である。そしてその中でも基礎資料収集後に抽出される患者固有の様々な問題点をどのように捉えるのか、またどのように解決するのかが重要であると思う。

症例の概要)63歳女性、う蝕治療を主訴に来院。初診時基礎資料より、下顎臼歯部欠損によるパーティカルストップの欠如、下顎の偏位などの機能的な問題点が多く見られ、Tooth wear や Tooth angulation による審美的問題も加えて全顎的観点からの治療が必要と考えられた。

本発表を通し治療の過程を供覧し、診査・診断、治療計画、各治療ステップにおける妥当性について、みなさまからのご意見をもとに再確認を行いたい。

## 『上顎側切歯の先天性欠如・ガミースマイルを伴うオープンバイト症例』

綿引淳一(医療法人社団 Teeth Alignment AQUA 日本橋 DENTAL CLINIC)

### ■略歴

1999年 昭和大学歯学部卒業  
2004年 日本矯正歯科学会認定医取得、昭和大学歯科矯正学大学院卒業 博士号取得  
2006年 AQUA 日本橋 DENTAL CLINIC 開業  
2008～2012年 理化学研究所脳科学総合研究所 客員研究員  
2011～2017年 アサヒグループホールディングス 商品開発コンサルタント

### ■所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部、日本矯正歯科学会(認定医)、昭和大学歯学部歯科矯正学教室(兼任講師)、アメリカ矯正歯科学会、アメリカ歯周病学会

### ■抄録

近年、包括的歯科治療において、矯正治療の重要性は益々高まっており矯正治療が齎す影響は大きく治療全体の根幹を担っていると言っても過言ではない。しかしながら一方では、矯正治療はマルチファクトリアルな治療であることから矯正治療単独の治療に比べて一層緻密な治療計画が必要となり他分野への相互理解が高い次元で求められる。

今回演者は、ガミースマイル、上顎側切歯先天性欠如、ボーンハウジングの不足・歯冠形態異常など様々な審美的・機能的問題を持ったオープンバイト症例に対して矯正・インプラント・ラミネートベニア・歯周組織再生・増生療法などの様々な包括的歯科治療を駆使して治療した症例を報告したい。また、本症例を通じて矯正治療を取り入れた包括的歯科治療に関しての問題的や可能性をディスカッションしたいと考えている。